

	課題分析	授業改善策
一年	国：自分の考えや思いを表現する力が弱い。正しく文章（文字・仮名遣い）を書くことが苦手な児童が多い。 算：計算力に個人差がある。数学的な思考力を働かせて問題を解くことが苦手な児童が多い。	国：語彙を増やすために、授業で言葉の意味を教えて、動作化や言葉遊びを通して、言語について学ぶ機会を増やす。日直のスピーチや、週末日記等で、話すことや書くことの力を伸ばす。 算：授業の前に計算タイムをとり、計算力をつける。ノートに自分の考えを整理して書く書き方を指導する。ペア学習を取り入れ、自分の考えを説明する機会を増やす。宿題で計算問題だけでなく、数学的思考を働かせる問題も入れる。
二年	国：①文章を読み取る力が弱い児童が多い。 ②話し言葉と書き言葉を区別した文章作りを苦手とする児童が多い。 算：繰り上がりや繰り下がり計算が苦手な児童が多い。	国：①読書の時間を増やす。文章の叙述に基づいて考えることを繰り返し指導していく。 ②家庭学習を活用し、日記を書かせることで、文章の構成を理解させる。また、教師が手本を提示したり、よく書けている児童の日記を紹介したりすることで書くことが苦手な児童も意欲的に取り組めるようにする。 算：計算の知識や技能を定着させるために、プリントやフラッシュカード、個人の計算カードなどを活用し、繰り返し練習を行う。
三年	国：自分の考えを友達に伝えることはできるが、文章にまとめる際に語彙の少なさや表現の工夫に課題が見られる。 社：三年生から始まった教科であり、地図や資料を活用し、地域の特徴やそれぞれの関係性について考えることが苦手な児童が多い。 体：運動することの楽しさを味わうことはできているが、運動の仕方や、できるようになるための練習方法を工夫することまで考えた経験が少ない。	国：自分の考えを書くときに、見本や書くときの視点を示す。話し言葉を書き言葉に変換したり、表現のバリエーションを増やしたりできるよう、文章表現にふさわしい語彙を考える時間を設定する。 社：資料を読み取って、考えたことを各自で書く時間を十分に取って、そこで気付いたことや分かったことをグループや学級全体で共有する場を設ける。また、その話し合いが整理できるように板書を工夫する。 体：運動の楽しさを味わわせると同時に、さらに規則を工夫できるようにする。また、できるようなポイントを示し、それを基に自分なりのコツを見つけてそれを教え合うことができるような学習の流れを工夫する。

四年	国：読みの場面で、何のために読むのかという目的がもてず、内容や心情を深くとらえようとする意識が低い。また、文章を書くことについて苦手意識をもつ児童が多い。 体：「協力しようとする」声かけ・タイミング・関わり方が、学級内の人間関係に影響を受け、運動技能を高める働きかけにならない。	国：「問いをもつ読み」を軸にし、ペアやグループで読みの視点を共有し、背景や心情の意味付けを豊かになるようにする。文章や考えを書く活動において、目的意識や相手意識、書く必要感を共有できるようにし、意欲をもって書き始められるように工夫する。 体：準備・作戦会議・振り返りの3つの場面で「対話による協力」に焦点をあてる。チーム決め、ルールなど「仲間のよさの発見」につながるよう、工夫する。
五年	国：物語文や説明文を読み、考えをもつことや書くことが苦手な児童が多い。 社：資料を丁寧に読み取ることや、読み取った事実を基に自分の考えを導き出すことが苦手な児童が多い。 体：「できるようになりたい」という思いで、技能を高めようとしたり、友達と協力したりする意欲に大きな差がある。また、自己の振り返りが苦手な児童も多い。	国：文を読むときのポイントや手法の指導を行い、登場人物や場面の構成を捉えさせると共に、自分の考えを、根拠を基に示す指導を行う。 社：資料の読み取り方を指導し、学習の中で、資料に注目させていく。数値の変化や他の資料との差異などに着目し、導入で活用したり、ノートに貼る資料として提示したりしていく。また、適切な発問や指示を適宜行う。 体：いくつかの場をつくることで、自分に合った場で安心して学習に取り組めるようにする。授業の終わりに「できたこと」「教わったこと」「うまくできるようになったこと」など項目に分けて振り返りを行う。グループやペア交流での振り返りも取り入れていく。
六年	国：自分の考えをもち、伝え合うことが苦手な児童が多い。 社：自分の生活との関わりを考えたりしながら、事象同士を関連付けたり、さらに考えを深めたり広げたりすることが苦手な児童が多い。 体：コロナ禍に大きな影響を受け、体力・運動経験に差がある児童が多い。	国：授業中に、自分の考えを書く時間や、ペアトーク・グループ活動などの話し合いの場を意図的に増やす。 社：実生活にどのような関わりがあるのかを考えさせる発問を行う。授業の導入や発問などを工夫して、学習してきたことがどのように関わっているのかを意識させる。 体：スモールステップの学習過程を大切にし、どの子も「できる」を味わうことのできる学習を行う。そのために、各領域において、場や用具、ルールなどを工夫して実践する。

専科	算：全国学力調査の結果から、本校の６年生は図形問題が苦手という結果が出た。学習状況を振り返ってみると、授業に対し積極的に発表する姿勢があるものの、ノートをとらなかつたり、持ち物がそろわなかつたりする児童もいる。このような実態から、学習内容の知識を理解しても、技能面での習熟を不足とする児童が多いと考える。 理：結果を予想し、結果から自分の考えをもち、言語化して表現できる力を身に付けることが苦手な児童が多い。 音：児童の思いや意図を音楽表現につなげるための知識・技能の習得をすることが苦手な児童が多い。 図：絵を描くことに難しさを感じ、苦手意識をもっている児童が多い。特に、写実的な表現がよいものだという意識を強くもっている。 外：決まったことを英語で真似して伝えることはできる。しかし、自分の中にあるものや考えを伝える意思、そのために既習事項からプラスワンで伝えることに躊躇する傾向がみられる。	算：普段から、定規を使って図やグラフをかくように指導していく。家庭に働きかけて持ち物をそろえるなど、生活面を整え、学習記録を積み重ねる楽しさを味わわせる。「花丸ちゃん」という様々な顔を付けた花丸を集めることを楽しみに、ノートを丁寧にとっている児童もいるため、その活動を広めるなど、評価の仕方を工夫していく。 理：ノートを活用して、自分の考えをまとめると共に、他者の意見も記入し、比較することができるような授業の流れをつくる。 音：自然で無理のない発声を基本とし、適時性のある教師の発問を工夫しながら、児童が知識・技能を習得できるように促す。 図：様々な表現方法を体験させ、写実的な表現が全てではなく、それ以外の美しさ、楽しさを感じられるよう指導する。 外：人真似ではなく、自分の考えを言葉で表現する言語活動を強化する。また、周りの話をよく聞き、違いを楽しめる活動をより多く取り入れる。
----	---	---